

謹賀新年

昭和51年元旦



洛友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

洛友会役員

- | | |
|--------|---------|
| 会長 | 鳥養利三郎 |
| 副会長 | 芦原 義重 |
| 〃 | 巽 良知 |
| 〃 | 本多 静雄 |
| 〃 | (中部支部長) |
| 〃 | 平井寛一郎 |
| 〃 | (東北支部長) |
| 〃 | 宮田 秀介 |
| 〃 | (九州支部長) |
| 〃 | 真田 安夫 |
| 〃 | (中国支部長) |
| 〃 | 林 重憲 |
| 〃 | 大谷 泰之 |
| 〃 | 中山 健一 |
| 東京支部長 | 伊藤 俊夫 |
| 関西支部長 | 荒井 武治 |
| 北陸支部長 | 阿部 要 |
| 四国支部長 | 山上 孝 |
| 北海道支部長 | 近藤 文治 |
| 総務幹事 | 山本 茂雄 |
| 会計幹事 | |

京都大学
電気関係教室
教官一同

関西電力株式会社
取締役会長 芦原 義重

日本原子力発電株式会社
取締役会長 一本松珠璣

日本建鉄株式会社
取締役会長 石川 辰雄

京阪電気鉄道株式会社
社長 青木精太郎

阪急電鉄株式会社
取締役社長 森 薫

(株)新宿ステーションビルディング
取締役社長 潮江 尚正

大阪変圧器株式会社
取締役副社長 野田 順二
常務取締役 毛利 正登
常務取締役 清原 道也

株式会社 島津製作所
取締役社長 上西 亮二

鈴木 戩吉
(昭和六年卒)
東京都太田区田園調布三の十二の六

日立化成工業株式会社
取締役社長 高木 正

阪本 勇
(昭和九年卒)

富士通株式会社
代表取締役社長 清宮 博
代表取締役副社長 小林大祐


日新電機株式会社
取締役社長 大森 武司
取締役副社長 森 元行
常務取締役 大嶋 幸一

謹賀新年

昭和51年元旦



電話〇六一〇三三五七八一


日立製作所
大阪営業所

フジテック株式会社
取締役社長 内山正太郎

松下電器産業株式会社
電動機研究所
所長 片鎌 秀雄

大和電機株式会社
取締役社長 十倉 正三

日本電子開発株式会社 ✓
取締役社長 松尾 三郎

株式会社
樟葉パブリック・
ゴルフコース

近畿日本鉄道株式会社
取締役社長 今里 英三

三菱電機株式会社
大阪営業所
取締役所長 大屋昭三郎

立石電機株式会社
取締役副社長 立石 孝雄

栗原産業株式会社
取締役社長 栗原 英三

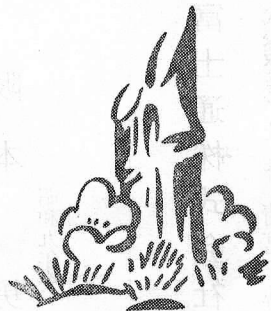
不二商事株式会社
代表取締役 荒井 一郎

愛知産業株式会社
取締役社長 井上弥三郎

株式会社
シンコーメタリコン
代表取締役 立石 亨三

近畿電気工事株式会社
取締役社長 岡本 繁一

栗原工業株式会社
取締役社長 栗原 信英



高周波熱練株式会社 ✓
取締役会長 藤田 真一

年頭随想

京都大学名誉教授
大正6年卒・工博

松田 長三郎

新年お目出とう御座います。まづ年頭のごあいさつを申し上げます。今年も昭和五十一年、昭和

も、波瀾の多い半世紀を経過したが、先年は明治一〇〇年で、その一〇〇年間の回顧が、各方面からなされてきた。この間での、最も大きな事件は明治維新であり、西欧文物・制度の輸入であり、漸く近代文化国家の兆しが見え初めて来た。大きな国家的事件と云えば勿論、日清・日露の両戦争であり、挙国一致、国を挙げて強敵に向った。大正三年（一九一四年）の第一次欧州大戦の際には、参戦はしていたが、申し訳的の参加であつて、一国の興亡を賭した戦争ではなかつた。第二次世界大戦はあらゆる近代兵器を具備した大規模の世界戦争で、戦勝国・戦敗国、何れも致命的打撃を受けたが、戦後三〇年の現在、戦敗国たるわが国と西独とは、空前の繁栄をもたらした。世紀の奇跡と世界の耳目を驚かせたが、英国やフランスなどは、戦前の影は淡くなつてゐる。これには頭の良い勤勉で、まじめな国民性の、皆々撓まざる努力の結果に外ならないので、英国の衰退はいつか本誌でも記したよう

に、所謂英国病がその禍根である。

昨年は不況・物価高・インフレと、不安焦燥のうちに明け暮れた。昨年の秋季か年末にかけては、景気は回復するだろうと、年初には政財界で予想されていたのであつたが、その予想を裏切つて、幾次にも及ぶ景気回復施策も、功を奏せず、本年への明るい見透しもつかぬままに、新年を迎えることになつたが、国は勿論、各地方公共団体も赤字財政で、来年度国家予算は、三兆に及ぶ莫大な借金で、お茶をにごすと云う不健全な状態は悲しむべきことである。イタリヤは国が、ニューヨークは市が、破産寸前であると伝えられたし、東京その他の市町村でも、軒並みにその危期が伝えられているが、こんな方面に一向無頓着であつた私如きものまでが、果してこれで良いのかと、心配になるような昨今である。大会社は大会社で営業不振を囁ち、中小企業は中小企業で、倒産の憂き目を見た所も多い。そういう中であつて、笑いが止まらぬと云う所もあつて、世の中は誠に複雑怪奇である。そうかと思うと、年末年始に

かけて、海外へ出かける人は一四万人にも上るといふし、帰省やレジャーで、何百万・何千万の大移動があり、初詣には六千万人が繰り出すとも云われて、個人の財布は必ずしも乏しくは無さそうであるが、世相や景気の見通しは、政界の不安定が加つて甚だ芳んばしくないようだ。こんな時期には兎角いろいろの流言ひ語が流れるもので、これは大いに警戒を要することである。各種のブームはその一つのあらわれであると思つては競馬・競輪に、一瞬に一四〇億が賭けられたり、一千万円宝くじに多勢の行列が続いたり、一時あれ程隆盛を極めたポウルが下火になつて、豪荘？だった建物は、今は廢墟と化して、無残の残骸をさらしていると思えば、パチンコは、高隆盛を続けている。数年前、「日本沈没」と云うSFが、

書物や映画で、大きなブームを巻き起したことがあるが、これは地球科学の推論から、日本列島が地球内部へ沈没してつうという単なる科学小説ではあるが、青少年から大人に至るまで、うわついた無節操の人達が多くなると、実際、日本は沈没してつうのでは無いかと憂うる人も多い。 こういう時代には、よく世紀末的な思想や言論がでて来て、何か

意想外な出来事を空想して陶醉したい人間心理が働くもののように、いろいろの所謂超能力ブームが出てくる。このうちでも精神・心靈現象を科学的に究明しようとするまじめな学会もあるが、至難のことではあるが、多少の手懸りでもつかむことができれば、大きな収穫と思つて。

上述のような種々のブームの氾濫は、各種の週刊誌・映画・テレビ・マンガ雑誌等が拍車をかけて、青少年を毒することが多いと思われる。これらは健全な読みもの・娯楽とは言へぬ。しかし一方、学校における体育・スポーツを見ていると誠に頼母しい感じを受ける。例えば大学における各種のスポーツや体育関係の、猛訓練の実情を見ていると、酷しい苦難に耐える精神的・肉体的の酷しいトレーニングには、目頭のあつくなるを覚えることが多い。次代を荷う青少年に、この困苦欠乏に耐えぬ不屈不撓の精神と肉体とがある限り、一国は安泰である。 學術・技術の進歩は顕著である。医学は発達して来たが、一つの生体の組織・機能については、不明だらけ。普通一般の風邪や神経痛などに就ても、未知であり、ガンに至つては尚更である。また地震予知が、今大きな問題になつているが、宇宙の涯まで探索しよ

うという現在でも、われわれが踏みしめているこの地球の内部については、未知だらけである。懷疑と究明、これが科学・技術発達の要諦であるが、大きな科学的発展の基礎は、懷疑と革命的な発想にある。プランクやアインシュタインの量子論や相対論の如き、革新的な理論は、そういう苦難を経て出て来ている。私は、一体こういう発想は、どこから生れて来るかについて、大きな興味を持つてゐるものであるが、本会会員の市川亀久弥博士は、湯川秀樹博士とともに、「創造工学」を早くから研究・提唱して来られた。人間の知能・情操の働きは、一四〇億の脳細胞によると云われているが、これらの細胞をフルに働かせること

によつて、人間は、更に大きな創造的成果を挙げることができるとは、ないか。二十一世紀までには、あと二十五年。長いようではあるが、アツという間に過ぎてつうだろう。二十五年後の新世界は、世相や科学・技術は、どうなつていであらうか。将来に対する長期予想は甚だ、むつかしいが、そうかと云つて、その日暮しでは困るのである。早い話が、電力問題にした所で、手を拱いでいたのでは、忽ち電力不足に悩まされることは必至であるが、現在の状態では、環境・公害問題で、大

きな障壁に突き当たっている。明るい適正な、納得の行く打開策が待望される。

卒業生各位の、卒業何周年という同級生の会合に招かれることが多い。十月四日には講習所の同窓会が京都補荘で、十月十日には大正十四・十五年卒業の十四日会の同窓会が京都・新都ホテルで、十一月八日には、昭和三十年卒業の二十周年記念会が箱根強羅の強羅山荘で、夫々盛大に開かれた(十一月八日には、昭和十五年卒業の三十五周年記念会が、京都南禅寺

十四日会卒業五十周年記念大会

大正十四年卒 木津 圭 蔵

十四日会は、大正十四年・十五年卒業生の同級同窓会であることは時々この紙面に書きましたので、ご承知のことと存じますが、古い言葉ながら光陰矢の如く、私共が卒業してから今年で五十年になります。そこでこれを記念して卒業五十周年記念大会を開きました。

洛友会の名簿を見ても解るように、移行行く年と共に先輩の数も次第に減って、十四日会も高齢者の会と言ってもよいランクになりました。私共が続く皆様も順々に卒業五十周年などの記念の年をお

で開かれ、お招きを受けたが、重なったので失礼した。十四日会には、卒業五十周年ということで、数日に亘って盛り沢山の楽しい集いが持たれた。ご夫人同伴の五十人に余る賑やかな集いであったが、五十年と云う我国歴史上、未曾有の困難な時期を切り抜いて来られ空前の繁栄を招来する一翼を荷われた各位の御労苦や、この間内助の功を果されたご夫人方のお骨折りを思い感謝の念を禁じ得ませんでした。将来の御多幸を祈ります。

迎えになり、色々のご計画をお樹てのことと致しますので、貴重な紙面を占有して洵に恐縮ですが、少し詳しくご披露申上げてご参考にお供し度いと存じます。
○十四日会卒業五十周年記念大会
とき 昭和五十年十月十日・十一日・十二日(二泊三日)
ところ 京都(新都ホテル泊) 奈良(大和山荘泊)

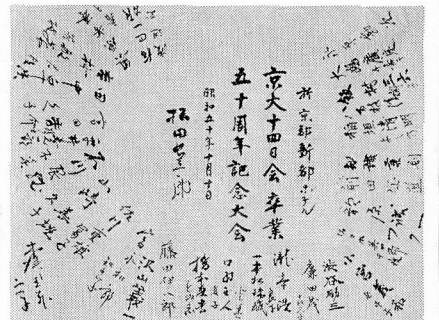
第一日
物故恩師物故会員追悼会
於京都東山泉涌寺塔頭雲龍院
卒業五十周年記念晩餐会
於 新都ホテル

第二日
関西電力喜撰山発電所見学
奈良東大寺参拝 正倉院拝観
第三日
興福寺博物館見学
西大寺大茶盛
お別れパーティー 月日亭
参会者

大正十四年組(二十一名)
一本松珠磯夫妻 木津圭蔵夫妻



京大十四日会 於京都新ミヤコホテル 昭和五十年十月十日



- 口羽玉人夫妻 沢山 義一
- 佐々木英四郎夫妻 佐川重雄夫妻
- 渋谷 勳三 滝本 浩夫妻
- 富永和郎夫妻 橋本真吉夫妻
- 藤田伊八郎 山崎善雄夫妻
- 大正十五年組(三十名)
- 石川辰雄夫妻 飯村三六夫妻
- 稲垣清明夫妻 歌原誠一夫妻
- 奥原芳誉夫妻 大島定広夫妻
- 廉田 茂夫妻 小宮義和夫妻
- 田中卓次夫妻 知識 兼則
- 永原 勘次 平井寛一郎夫妻
- 前田 安道 宮田秀介夫妻
- 八百枝 清 吉村敏恭夫妻
- 渡辺一雄夫妻

○追悼会
卒業以来生存会員は自分達の交歓に明け暮れてきましたが、今般五十周年を機に、我々の会合に出ることなく、又常連として参加しながら去り行かれた物故会員の霊を弔うべしとの議が澎湃として起

り、今日の追悼会となりました。昨年の南九州大会の砌この提案の一人であった山本三郎君は今故く追悼せられるお一人になった。洵に悲しい事です。申訳ないことながら、私達は厭しいこの世の中に生きることゝ氣をとられ、物故会員ご遺族様方のご消息も解らないまま五十年の永い月日が経過し、サテ追悼会となつて周章してご遺族ご消息調べに着手した次第で、全会員を動員して難行苦業漸くその大半を掴むことが出来ました。

追悼会の意義及び情景は、下記平井君の「追悼のことば」及びご遺族様宛報告の手紙をお読み願つてご想像賜り度い。
尚追悼会は会員全員の名に於て行う趣旨より、その費用は今大会欠席者を含め全員の拠金によって行ったことを申添えます。
○追悼のことば(平井寛一郎君)
大正十四年並びに大正十五年の京都帝国大学工学部電気工学科の卒業生が、その在学中親しくお教えを賜った恩師のうち惜しくも今日迄になくなられた諸先生の霊と両年度私共と一緒に大学を卒業されながら、不幸にも物故された学友諸兄の霊のみ前に、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

私共同期卒業生は十四日会の名のもとに、近年合同年次大会を毎

年開催し旧交を温めて参りましたが、今年はその卒業五十周年を記念して、思い出深い母校の所在地京都及び奈良に於て五十周年記念大会を開催することに致しました。

思うに私共は今日迄無事生きのびてここに記念大会に参加する喜びを得られたのでありますが、ご不幸にも途中で私共の隊列から離れて遠いところへ旅立たれた会員は、大正十四年組二十四名、大正十五年組十四名、合計三十八名で同期卒業生全員の約半数の多きに達しておられます。特に私共が共に在学中親しくお教えを賜った懐しい諸先生方は、その大半が今やこの世の中にいらっしやいません。

そこで私共は五十年と一区切のつく今回の集いを機会に今はなき恩師並びに学友の霊をお迎えて今日生存する全会員の名に於て謹んで追悼の意を表し併せてその昔を共に偲びたく、本日此処京都市東山区の名刹泉涌寺内雲龍院に集まり厳肅裡に追悼会を執り行う次第でございます。

五十年と言えは私共の人生に於ける一番大事な歳月の全部であり特にこの間世の中は昭和初期の大恐慌に始まり満州事変・大東亜戦争・未曾有の敗戦・朝鮮事変・経済の復興発展・更に最近の世界的不況と想像を絶する激変の荒波

を潜つて来て居ります。

こうした激動の中にあつて或いは医療技術の貧困、或いは戦争の犠牲になつて亡くなられ、或いは不慮の事故の為早く此の世を去られた方々を初めとし、近くはほん最近幽明界を異にされた方々にいたるまで夫々の運命とは申せ、多くの心残りのまま私共に先立つてその人生を終えられたことはまことに痛ましい限りでございます。

残された私共といたしましては夫々の分野に於て更に精進を重ね社会に貢献することが、恩師諸先生の御恩にお応えし、学友諸兄のご遺志に副うものと考えている次第でございます。

本日此処に今はなき恩師並びに物故会員に、限らない哀悼の意を表し、永久にそのご冥福と、ご遺族のご多幸をお祈り致しまして追悼の言葉と致します。

十四日会会員代表 平井寛一郎
○ご遺族への手紙
拜啓 十月を迎え秋らしいよい気候となりました。皆様様癒々々機嫌お麗しくいられますこと、お歡こび申し上げます。 陳者

この度の十四日会追悼会につき次の通りご報告申し上げます。
一、十四日会は京大電気工学科大正十四年・十五年卒業生の級友同窓会でございます。毎年会員

(夫婦にて参加)相集い欲談の会合を持つことにしていますが、今年には卒業五十周年に当りますので会員各位の強い要望に応え、恩師を含めて物故会員の追悼会を催しました。

一、追悼会は次の通り仏式によりました。
日時 昭和五十年十月十日
午後二時三十分
場所 京都市東山区泉涌寺山内町 雲龍院

物故者お名前(敬称略)
恩師(八名)
青柳栄司 本野 享 岡本 勉
加藤信義 清水義一 大竹太郎
七里義雄 井上 昇
大正十四年組(二十四名)
伊勢田武 小谷周一 白崎正男
黒岩浩一 得田与義 古田秀穂
山田 基 吉住善造 中山修次
遠藤主馬 種田直太郎 田近哲三
俣賀紀六 中島 温 岡本一郎
谷 忠篤 相原賢十郎 松尾謹一
正木 博 岡田市治 吾郷侃二
河村有平 樋口竹太郎 金井健吉
大正十五年組(十四名)
稲波季雄 近藤 晋 鈴木慶道
高柳一雄 南家育三 松垣清澄
牧瀬祐次郎 柳瀬滋郎 藤本紫朗
栗本周六 小西孝男 山崎武夫
山本三郎 郵答院規矩雄

一、雲龍院は京都泉涌寺に続く東山山麓丘陵地奥深い閑静の地に在る名刹にて、当日は一般参詣者を断つて借り切りとし、我々会員(夫人を含む)五十二名参列、先づ控え室にてお薄茶などを頂いて気を静め冥想に耽つた後、雲龍院住職池田龍潤師(三高ご出身)に導かれて本堂に進み一同座につく。

追悼会は十四日会代表平井寛一郎君の追悼の辞に始まり、池田師導師となつて一門の僧侶十名を従えて徐ろに誦経に入り、この声は次第に高くなり七堂伽藍に響き互つて故き友のみ霊に届けよとはかり、我々参列者は寂として只管故き友のご冥福をお祈り申上げ、導師が物故者のお名前を呼びあげるに至つて、在りし日の故人の面影がまぶたに去来して夫々思い思ひの感慨に耽りました。洵にこの日は故人にお会い出来たような気がして、我々にもよい想い出の一日となりました。茲に会員一同心より故き会員のご冥福をお祈り申上げます。

一、本来ご遺族様方各位にこの追悼会にご列席をお願い申上げるべきところ、諸般の事情より本意を得ず洵に申訳ない次第でございます。そこで

追悼会は十四日会代表平井寛一郎君の追悼の辞に始まり、池田師導師となつて一門の僧侶十名を従えて徐ろに誦経に入り、この声は次第に高くなり七堂伽藍に響き互つて故き友のみ霊に届けよとはかり、我々参列者は寂として只管故き友のご冥福をお祈り申上げ、導師が物故者のお名前を呼びあげるに至つて、在りし日の故人の面影がまぶたに去来して夫々思い思ひの感慨に耽りました。洵にこの日は故人にお会い出来たような気がして、我々にもよい想い出の一日となりました。茲に会員一同心より故き会員のご冥福をお祈り申上げます。

一、本来ご遺族様方各位にこの追悼会にご列席をお願い申上げるべきところ、諸般の事情より本意を得ず洵に申訳ない次第でございます。そこで

追悼会は十四日会代表平井寛一郎君の追悼の辞に始まり、池田師導師となつて一門の僧侶十名を従えて徐ろに誦経に入り、この声は次第に高くなり七堂伽藍に響き互つて故き友のみ霊に届けよとはかり、我々参列者は寂として只管故き友のご冥福をお祈り申上げ、導師が物故者のお名前を呼びあげるに至つて、在りし日の故人の面影がまぶたに去来して夫々思い思ひの感慨に耽りました。洵にこの日は故人にお会い出来たような気がして、我々にもよい想い出の一日となりました。茲に会員一同心より故き会員のご冥福をお祈り申上げます。

一、本来ご遺族様方各位にこの追悼会にご列席をお願い申上げるべきところ、諸般の事情より本意を得ず洵に申訳ない次第でございます。そこで

泉涌寺雲龍院にのみ特に許されてある菊のご紋章入りでございます。泉涌寺は歴代天皇の菩提寺です。

一、十四日会は其後同日夜、京都新都ホテルに於て卒業五十周年記念会を催し、翌十一日は関西電力の宇治喜撰山揚水発電所を見学し奈良に向い、東大寺戒壇院等に参拝して奈良に一泊、十二日は西大寺の大茶盛茶会に参加して午後二時過ぎ解散いたしました。

この小旅行中も物故会員追想に的を絞ほり、奈良の古寺を遍歴しながら故き会員の想い出を語ることに徹しました。

一、洵に迂闊ながら我々十四日会員は日頃より物故会員がご遺族のご消息に疎く失礼のみ申上げて居りましたが、今回の追悼会を機会に皆様をお騒がせしながらも次第にご遺族様方の名簿も整理出来て参りました。

ご遺族様方は物故会員に先き立たれたご不幸によるお淋しさから立ち直られると共に、お二世、お三世のご成人により次第にご繁栄のことと拝察申上げますが、何卒故人の盟友の集りである十四日会をご念頭にお置き下され何かとご連絡賜れば幸いに存じます。

終りにご遺族様方のご健康とご隆盛をお祈りして 擲筆いたしました。 敬 具

○卒業五十周年記念晩餐会

雲龍院での追悼会に続いて車を東福寺内(通称雪舟寺)笏陀院に回わし故青柳榮司先生のお墓に詣り、ご住職による墓前祭に次いで代わる代わる焼香し、雲龍院と共に恩師旧友への追悼の意を尽して満ち足りた気持ちでホテルに帰った一同は、心機一転して今度は卒業五十周年記念晩餐会に臨んだ。室のシャンデリアは煌かに輝くなか、この夜は参列の夫人方も心なしかお化粧も濃い目にご主人に寄り添って着席、口羽玉人君の名司会によって宴が始った。

一本松君が先ず立って式辭を述べる。食卓に次々に運ばれる料理は幹事が「量を少くして質のよいもの」と註文してあったので何れもこれを美味、ワイン、日本酒、ビールは豊富、ミュージックが静かに聞えて宴が漸やく高調に達した時、急に照明がいくらか暗くなつたと思うと、目前の大スクリーンに会員の卒業当時の若い写真が大写しにプロジェクトしているではないか。

予め抽籤で決めた順番により、写真に写し出されている会員がこもごも立ち上って、それぞれの想い出話、苦勞話、失敗談、さては恩師のお噂など二十九名のスピーチは続いてゆく。放映された若き日の写真は、自身や同輩の今日の

姿に比較して夫々の感慨に耽るのもさることながら、ご夫人連の感嘆、失笑、苦笑の聲は懐しみ深いそれぞれのお口から出たことと思うが、それは誰方の声が判じ得ない。

五十年という永い間の出来事は談じて尽きること知らず、幹事はスピーチ時間の短縮に躍起と声をかけながらも延々と続きホテル側へ終了時間の延長を再三要請した次第であった。それでも何れ劣らぬ珍談奇談、語るもの聴くもの興は何時までも尽きること知らなかった。

ご不快にてお引籠りの鳥養先生は別として、恩師でお元氣なのは松田長三郎先生、羽村、品川の両先生であるが、当日は上京中の松田先生が新幹線で馳せつけご出席を賜ったことは我々の感激であった。当日は新幹線が可成りの延着となり先生は車中にて随分お氣を揉まれたことと拝察されますが、ご健康にてご長寿の実績を身をお示しになり、お祝いと激励のお言葉を賜ったこと洵に感銘深くここに先生に尚一層のご健康をお祈り致します。

五十年の感懐は一本松君の式辭に尽されているので次に掲載いたします。

○卒業五十周年記念晩餐会式辭 (一本松珠璣君)

十四日会も毎年十数回も続けて居りますが、今年は卒業五十周年の記念すべき大会に皆様お揃いでお元氣なお顔を並べていただいたことはご同慶の至りに存じます。諸先生をお招き申上げたのですが鳥養先生はご病氣中であり、松田先生にご出席お願いしました。羽村、品川の両先生はご旅行中等の為に欠席残念に存じます。

先づ五十年の感懐でありますが一言すれば、長いようでもあり、又短かいようでもある。逆に短かいようでもあり、又長いようでもある。私自身は後者であるが、前者と思う人もあろう。要するに人の感じは違ふのでしようが、矢張り長いということになるのではありませんか。

身体は確かに年をとった。これは事実です。私は白内障(医者曰く七十以上は誰でも)耳が遠くなつた、家内に笑われます(都合のよいこともある)物忘れ、人の名など、ものを書くときなど辞書持参、脚も坂には動悸、新幹線の階段は苦手、ゴルフは飛ばなくなつた。それでもお互いに何か一つぐらいいは若いところがあるのではな

いでしょうか?私の場合は碁、西原君、奥原君、石川君の碁、口羽夫妻の謡曲、歌原君の踊、小宮君、富永君の文学等々。

ここで五十年を回顧してみます

るに、卒業の時は一寸とした不景氣であったが兎も角も就職は大丈夫、不景氣を経て満州事變、数年は電力好調、昭和十二年日支事變、これから次第に戦争へ、昭和十六年頃より物が段々に無くなり奥様方は大変、私も応召、翌年解除、本格的戦争に入る。昭和二十年敗北、この間及びその後の戦後ザット十年は苦しかった時、主人も奥さんもヤット生き延びられた感じ戦争は我等にとって最大の試練であった。その代わりか何うかが居なくなつて風通しがよくなるし景氣もよくなつて持ち直した。一般的には激動の五十年であったが我々電気分野でみれば、五十年全体としてみて躍進した、その点は恵まれたと言える。

かくて我々は今、幾山河を越えては渡たり歩み続けてここに五十年、太陽が西の空に沈むかのよう、悲しみも喜びも、苦しみも楽しさも、やがて忘却の彼方に消え去ろうとしています。昔の人は人生五十年と大観していましたが、我々も今はその境地に入らうとしている。激動の五十年、時は移り物は変わり、恩師に先き立たれても、親に死に別れても子は育つ、変わぬものは我々の交友である。

我等十四日会は特別に仲のよい大正十四年・十五年組が毎年重ねてきた夫婦同伴総勢五十余名、通

常二泊三日の大旅行は、全く人も羨やむ一大グループに大きく育ってきた。そしてそれが延々と続いていきます。

この会がかくも盛大にしてくれたのは、会員の氣がピッタリ合っていることにもよるが、特に各地に散在する会員各位が熱心に企画実施にご尽力賜ったことによるものであり、又忘れてならぬことはご夫人方が内助の功と言うよりは積極的な推進役を努めて下さつたことでもあります。五十年という区切に、ここに心よりお礼申し上げます。

回を重ねること二十回に近く仲々止みそうでもありません。益々發展すること疑いなく、今に国内だけで物足らず十四日会海外遠征となりかねない勢いである。先程五十年の感懐のなかで西陽などを持ち出して、物悲しいことを申し上げましたが、今ここに集つてみると俄然元氣が出てきました今日十四日会が盛大であることはこれによって皆んなの年を若返らせてくれているのかも知れません。何だか十四日会を止めると急に年をとつて浦島太郎のように白髪になりそうです。

五十年経って今、十四日会は大にやつて行かねばならぬ、というところが私の挨拶の結論になったことを皆様と共に喜び合ひ度い

と存じます。

○喜撰山発電所見学(十月十一日)
わが十四日会は、見学講演等実のある行事を加えることに心掛けていたが、今回は特に婦人会員の電気知識の高揚も目ざして、宇治の関西電力喜撰山発電所の見学をした。

関西電力の吉田常務、京都支店長他関係ご当局多数のお出迎えを受けて、喜撰山を望む山上の事務所に到着、揚水発電の意義、この発電所施設につきつづぎに説明を受け、ロックフィルダム、貯水湖地下発電所等を見学、電力設備の規模の壮大なることに今更ながら感銘を受け、紅葉には少し早い宇治川、それを取りまく山々、貯水湖に映る喜撰山の風景に心を奪われつつ奈良に向った。

○古都奈良訪問

奈良は京都で学生生活を送った我々には何度も訪れた曾遊の地であり、心の「ふるさと」として親しみのある土地なので、今回は奈良ならでは見られないところを重点的に見せて貰うことにした。

奈良公会堂庭園(十月十一日)
先づ庄巻は奈良公会堂庭園に於ける午餐会であった。赤松群生の丘陵に囲まれた緑の広い芝生に絨毛氈敷きの床机が点々と散在し折柄薄曇りで陽射しも程よく床机は松や芝の緑と対照に鮮かに紅色

が冴える。男女入り乱れて、三々五々床机に腰を下ろし、奈良の老舗一宮庵作の弁当に舌鼓みを打ち乾いた喉にビールを流しつづの歓談、これは永劫に忘れられるものでない。お美しい関西電力のお嬢様方の点つるお薄茶のご接待を受け、何時までも平安の夢を見続けた。

○大仏蓮台昇殿(十月十一日)

大仏様は奈良の象徴であり誰もが参りするが、今度は東大寺本坊に一席を設けて貰って、奈良大教授堀池春峰先生を講師として大仏鑄造の方法、其後の経過などについて講義を聴き、一同大仏殿に向かい、特に許されて蓮台に昇段、予て用意の懐中電灯で照して蓮台に刻まれた色々の仏像仏殿、鑄造の工程を示す傷跡などを見学、真上に鎮座します大仏のお顔の大きいのに今更ながら感嘆。

○正倉院校倉(十月十一日)

大仏殿を出て階壇院見学の後、正倉院に向かう。館長殿に迎えられ、塵一つなく掃き清められた内苑に入る。高く聳ゆる古樹に囲まれて美しい庭園が広々と展開して来る。芝生の中に、板倉を中心に挟んで両側に校倉(アセクラ)の正倉院がどっしりと建っている。今の言葉で言うピロチイ式建築の下に立って特に許されて、正倉院の

柱や梁などに直に手を触れたその感触は千古の歴史が伝って来るような気がする。

○西大寺大茶盛(十月十二日)

奈良の一夜も静かに明けて、一本松君が会議でテヘラン出張の為中座するのを見送って、再びバスに乗り興福寺の博物館(堀池先生の講義あり)を見学して西大寺に向かう。幸いに当日(十二日)は大茶盛式公開の日だったので正式行事に参加することが出来た。方丈上段に松枝に綿を綴って雪景になぞられて、古式豊かに口径一尺二寸の大茶碗に茶を点じ苦味を喫して一味の妙境を賞美した。

○十四日会演芸大会(十月十一日)

十四日会は演芸も又盛んである奈良の宿は老杉並らび聳える正倉院裏の丘陵にこの春新築された大和山荘であった。この宿で、前日の五十周年記念晩餐会とは異った趣きで、和食の宴会が始まった。侍べる美妓のサービスもさることながら、宴酣となって会員の演芸披露に及んで高潮に達し、田中卓次君(尺八)同夫人(琴)の合奏、歌原君の舞踊、口羽夫人、宮田夫人の仕舞と続々と続いてゆく。何れも一流の表芸、公開して高い入場料をとりたいたものである。

お別れパーティー(十月十二日)
今年には特に意義のあった二泊三日の十四日会も終りに近づき、奈

良奥山月日亭のお別れパーティーで最後を締め括った。楽しい出合も別れは辛い、原始林に囲まれた超静寂の別天地、運ばれてくる料理は新鮮な魚介による純日本料理、美酒を酌み交わしつつ、この三日間、今日まで生を得て人生遠視しての親友同志の心の触れ合いに一同心満ち足りて散会した。

そして解散にあたって慣例に従って、来年(昭和五十一年)は十一月伊豆方面で開催の事を決議し、夫々幹事を指名した。

○本大会の企画及び準備

本十四日会の如き五十余名の大部隊の会合は、一年前から準備に着手することを必要とする。特に今回は五十周年記念であり、追悼

十四日会今昔

大正十五年卒
日立電線顧問 小宮 義和

大正十四年卒業の一本松珠環氏・木津圭藏氏が中心となって、卒業直後から毎月十四日大阪堂島の中央電気倶楽部で、在阪十四年組の昼食会を催していられたのが、十四日会の始まりで、昭和六年に在阪大正十五年組がこれに加えて頂いた。現在大正十四・十五年両クラスが合同して、年に一回十四日会大会を催している原点はここにある。

会も決めていたので、例年にも増して緊張し、幹事は幾度かの実地踏査を経て用意万端怠たことがなかった。

追悼会及びこれに伴う遺族の消息調査、記念晩餐会の運営は全部口羽玉人君のお骨折りによるところであり、又皆んなの知っている奈良の特異の企画の出来たことは奈良の有力者前田安道君のご配慮によるもの、ここに二両君に対して満腔の謝意を表したい。

又関西電力様には、発電所の見学、それに伴う輸送延いては全旅行のお世話、会員の保健其他色々のご接待を賜わり、併せて厚く御礼申し上げます。

昭和十年頃から東京でも両クラス合同で不定期に会合したり、後には電気倶楽部で月例の昼食会を続けたこともあったが、やがて戦争で中断された。

戦後昭和二十五年に大阪梅田新道のグリーン・クラブで在阪十四・十五年組の例月昼食会が再開され、その中に電気倶楽部が復原されたので十四日会はそこへ戻って行った。

その頃から木津氏の努力で、この昼食会の会員は大正十二年組から昭和八年組までの十一年間の卒業生に拡大され、十四日会の名称はそのまま非常に盛んな会となり、定例昼食会のほかに十回毎に晚餐会を開いたり、現在では毎年秋に関西電力の御好意で見学会を開いたりしている。

いっぽう各クラスの全国的規模の記念同窓会は、はじめ兩クラス別々に開かれていた。

一九二六年に因んだ大正十五年組の二六会の十周年記念会は昭和十一年に京大楽友会館・平野家(一一・四・一二)、また十五年周年記念会は昭和十六年京大楽友会館・中村楼(一六・四・二七)で催された。

十周年記念会の時に、その少し前に二十五周年の会合を持たれた鳥養先生が「君達は十周年会合を祝っているが、自分のように二十五年も経ってみると、友達がお互いに生きていくということだけを感謝するようになる」と御感想をお洩らしになったのが、今もなお耳に残っている。今年の秋に卒業五十周年の十四日会大会で旧友たちと会って、一入共感を禁じ得なかった。

二六会の二十五周年は京大清風荘・岡崎つる家(二六・五・三)三十周年は伊勢参宮・鳥羽戸田別

館(三一・四・二二)と凡張面に五年目毎に開かれた。

それから数年後に、記念会の開催が途切れ勝ちであった十四年組から、三十五年記念会は十四年・十五年合同して開こうという提案があり、十五年組としては一年繰上げて三十五年に京大・京大和で盛大な十四日会合同記念会を催した(三五・五・八)。

それ以後は毎月の在阪拡大十四日会と並行して、大正十四・十五兩クラス合同の全国的十四日会大会が頻りに開かれることになり、二つの十四日会がある形となった。

三十五年会合の時、東京の一会員が京都見物に夫人を同伴され、二十五周年会合に已に数人の夫人参加のあった十四年組から、この次からは夫人同伴という提案があり、翌年の熱海大観荘の大会(三六・五・七)には二十人の夫人が出席された。それ以後の十四日会大会には毎回殆んど出席の全会員の夫人二十数人が参加されるようになった。

この時以来今年の秋までに次のように十四日回の二泊三日の大会が各地で開かれている。

- 長崎・雲仙(三八・五・五)
- 熊野・勝浦・白浜(三九・五・一〇)
- 蔵王・松島・東海村(四〇・一〇・六)
- 京大清風荘・黒部

- (四一・一〇・二九) ○伊勢参宮
- ・志摩(四二・一一・三)
- 高松
- ・高知・松山(四三・一〇・一〇)
- 東京皇居拜観・国立劇場(四四・一〇・一〇)
- 出雲大社・松江
- ・鳥取(四五・一〇・一〇)
- 黒部(四六・一〇・一〇)
- 琵琶湖
- 一周・京大(四七・一一・一二)
- 最上川下り・湯殿山・新潟
- 渡(四八・一〇)
- 宮崎・えびの
- 高原・鹿児島指宿(四九・一〇)
- 京都泉涌寺恩師亡友慰靈祭・青柳先生御墓参詣・奈良(五〇・一〇・一〇)

このようにして十四日会大会は次第に旅行会の様相を呈して来た。老境に入った会員は、年一度の大会によって益々旧交を温め、同時に内助の功をねぎらわれる夫人達も懇々親密の度を増して来ていた。そして年毎の大会が楽しみに待たれるようになって来た。

それだけに「健康の日」の前後の大会に幹事は一年も前から、会場・宿泊・乗物などの準備に一方ならぬ苦心をされ、その御苦労は並大抵のものでないと感謝に堪えない。(五〇・一〇・二五)

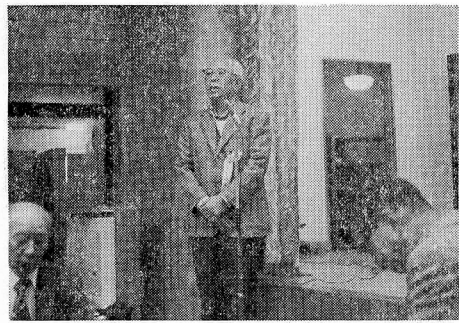
洛友会関西支部

家族見学会の記

関西支部では毎年一回家族同伴のバス見学会を催すことになって

居り、本年は晩秋の日曜日を予め選んで、十月十六日に挙行された。大阪組はホテル阪神前、京都組は京都駅八条口に午前八時集合し、各バス三台に分乗し、京都組は途中奈良県庁前にて奈良よりの参加者を拾い、午前十時半室生寺に全員が集結した。此の日は折悪しく私鉄ストの為、已む無く欠席した方が約四〇名もあったが、それでも年一度の楽しい行事のこととて、家族、子供(約三十五名)をまじえた総員約二三〇名と言う大盛況であった。

前日迄降り続いた雨もその日にはピタリと止み、紅葉の目の覚める様な美しい溪谷を横切り、女人高野の別名ある室生寺は深い山に取りかこまれ、一同都座を離れ日頃の労を忘れ去った。



正午より橋本屋別館の大宴会場に集合し、先づ伊藤俊夫支部長の挨拶があり、これに対し全出席者を代表され松田長三郎先生が謝辭を述べられた。先生は大正六年卒業の最長老で八十三才になられるとのことであるが、此の日も奥の院まで登られ壯者を凌ぐ御健脚には若い者は啞然とするばかりで、大先生の身心澆潤たる感慨を目のあたり拝見するだけでも有意義な催しであると思われた。又二百数十名が一堂に会し食事を取ると言う催しは容易なことでは無く、御世話をして頂いた関西電力の幹事の方々の御苦労に対し会員一同深く感謝した。

室生寺見学後、帰路は長谷寺に立ち寄り、折からの紅葉まつりで本堂に於て、みやびやかな尺八・琴の合奏の催があり風流な祭を見学し、午後十五時三十分バスは帰路に向った。(幹事山本記)

(追記)

此の日御出席の大正六年卒の大先輩奥平安氏の御家族より寄せられた和歌二句を御披露申し上げます。

- 室生寺の秋を織りなす山の色千とせの昔もかくやあるらめ
- 室生寺の落葉のいろのあざやかさ争いひろふ児等また美はし

昭和二年卒業 同窓会

昭和二年卒業の同窓会は同四十二年の四十周年のそれ以来毎年行っています。本年は「奈良にて」という希望が出ましたので、世話人はいろいろと考えたのですが、制約されることが多くて、結局は貸切観光バスに乗って次のようなお寺巡りとなりました。第一日の十月十九日には岩船寺、浄瑠璃寺と春日大社へ。その夜は若草山々麓のホテル大和山荘にて懇談会、そして一泊。第二日には法華寺、唐招提寺、薬師寺、慈光院、法隆寺、中宮寺へ。両日とも好天に恵まれ誠に有難かったのですが、何分にも観光シーズンでもあり、小中学生の修学旅行団等とちか合つて、殊に法隆寺ではどうにもならぬ混雑で閉口いたしました。会員の皆さんに奈良の好きを十分に味わって頂くことが出来ず全く相

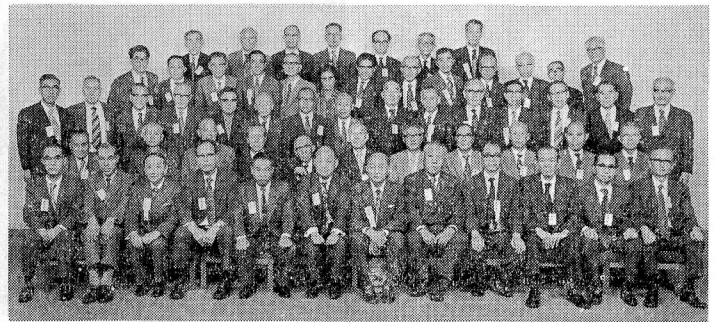
すまなく、「参加することに意義あり」としてお許し下さい。今回出席者は寄せ書のとりの十九名でした。来年は関東方面で開催の予定、そして再来年は卒業後半世紀の満五十周年の同窓会となります。(瀬川記)

電講同窓 記念集会

電氣工学講習所の第一回卒業生が大正四年に孤々の声をあげてから六十周年を迎える此の月にあたり、電講同窓生は記念の催として昭和五十年十月四日と五日の二日間、互に京都東山の楠荘で記念集会を開いた。

大学からは先生方の御代表としてお招きした松田、阿部、大谷、近藤先生の御臨席を得て御高説を賜り、全国北は福島県いわき市、南は鹿児島県から参集した会員はその数一七名に達し、出席会員が当初の予想を遙かに超過して会場の設営に実行委員をまごつかせたが、幸なごやかな雰囲気の中に此の集会は進められた。

久方振りどころか卒業以来始めてと云う久闊を或はその後の家族の様子を交換したりの懇談の時間もゆつくりとつて、寄せ書や記念写真の撮影を済まして宴に入つた。

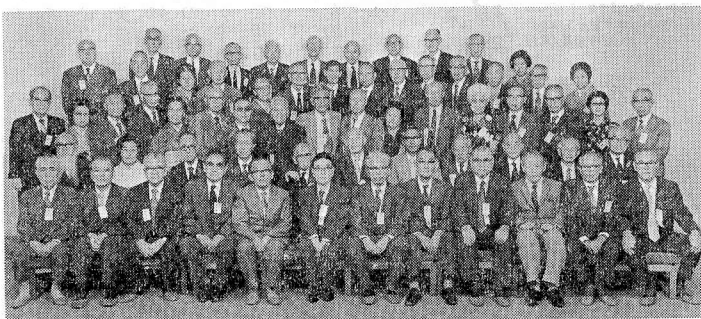


昭和五十年十月四日 洛友会電講同窓記念集会(昭和組)

上野満委員司会のもとに先づ立石亭三実行委員長の開会の挨拶があり、続いて御元氣一杯の松田先生、阿部先生の久振りのお話を拝聴し、清水寿栄次君の出席会員代表挨拶の次に大谷先生の音頭に依る乾盃に始り、祇園名妓の京舞や、会員飛入の余興等で大いにはずみ夜の更けるのも忘れた感であった。午後九時近く宴は一時休憩に入り

翌朝再び引続いての宴が再会されたが、此の席では各会員から次々と相変らずの技術的な問題についての堅い話や、流石年の関係か健康法等の紹介を兼ねたスピーチに花が咲き時間の経過も早く、松田代造君の高砂の舞を以て宴を打ち切り、井上弥三郎副委員長の閉会の辭を以て此の大宴会を盛会裡に閉じた。

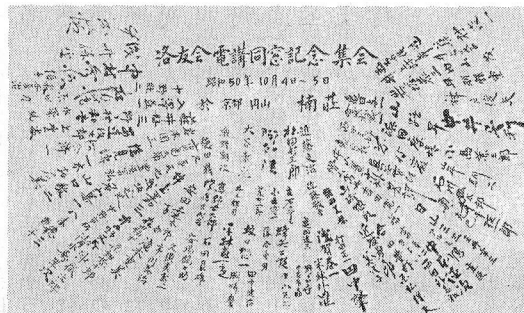
なお洛友会事務局と会員有志の



昭和五十年十月四日 洛友会電講同窓記念集会(大正組)

かたがたより格別の御配慮を戴きましたので茲に記して感謝の意を表します。

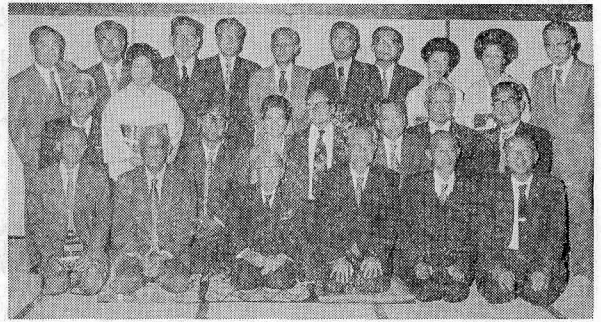
幹事 森 芳郎



昭和十五年卒業 庚辰会同窓会

十一月八日夜、卒業三十五周年の同窓会を、阿部先生、羽村先生、大谷先生をおむかえし、同窓生十八名の参加を得て、祇園の村楼で行った。三十周年のときには来られなかつた東北・九州の同窓生の参加があり、全国的な同窓会となった。

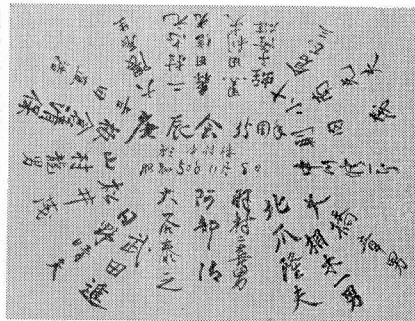
吾々の庚辰会の名をつけていただき、卒業の時のいろいろのお世話をお願いした松田先生と、清野先



旧交を深めた。(参加者、相木、板倉、蛭子、大隈、大橋、北爪、黒田、小南、武田、十倉、中川、二村、則内、日野、松井、森田、山村、吉田) (小南記)

生には御所用があり御出席いただけず残念であったが、阿部先生よりは新しい技術、材料の将来展望について、羽村先生よりは現在よりもっとひどかった就職難時代があったとの話を、大谷先生よりは御臨席いただけなかった諸先生の御様子と電気教室の近況をおきかせいただき、一同よりは卒業後まもなく起った第二次世界大戦の前から後までの良き時代・困難に満ちた時代等、いろいろな時代を経験したおもいでと近況報告を報告して各自の健在を紹介して、歓談に時をすごした。

散会后、遠方よりの参加者7名は、同所の一室に宿泊して、更に



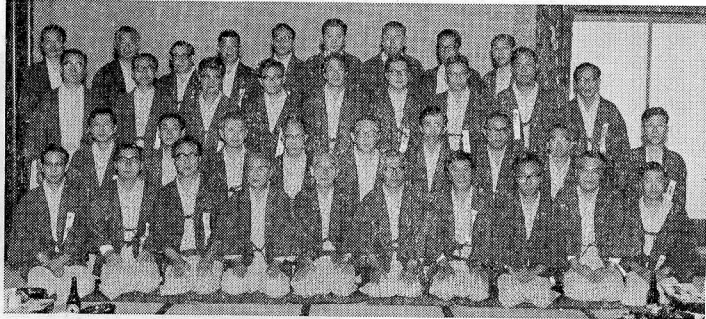
昭和三十年卒業 同窓会

さる十一月八、九日に昭和三十年卒業生の二十周年クラス会が箱根で開催された。今まで五、十、十五周年はいずれも京都近辺で日帰りであったが、多少サイフの余裕もできたので(？)一泊でやろうということになり、ホテル強羅花壇に参集した。

当日はかつて教えを受けた先生のうち松田長三郎、前田憲一、近藤文治三先生にもはるばる御出席

頂き我々一同大変感激するとともに、そのお元気なご様子に接し、

昔の学生気分に戻る事ができた。我々卒業生は六十三名のうち、三十五名が出席した。欠席者



京都大学電気工学科卒業二十周年記念 昭和五十年十一月八日 於強羅花壇

日米セミナー「医用画像のデジタル処理」に出席して

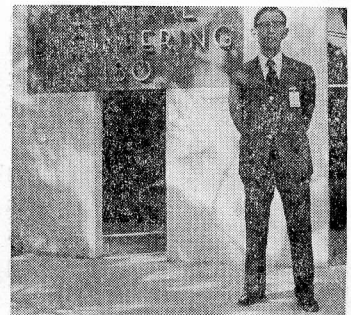
桑原道義 (昭和二十三年卒)

昭和五十年十月二十七日から同三十一日までの五日間標題の日米

のうち七名は海外出張中とのことであった。卒業以来はじめて顔をあわす面々も多く、懐しき一入であった。先生方と共に温泉の湯にひたつた後、宴会場に集った。諸先生方のお話をうかがった後、宴にはいり、一同盃をかわしつつ時のたつのも忘れて話に夢中になり、先生ともども夜の一時近くまで話の種はつきなかつた。



(田場記)



ジェット推進研究所での筆者

ア大学ジェット推進研究所で開催され、東京大学生産技術研究所尾上守夫教授を日本側代表とする他の七名の日本側メンバーおよび四名のオブザーバとともに出席する機会を得ました。このセミナーは米科学財団と日本学術振興会のスポンサーシップで催されましたが、洛友会関係では小生のほかに相馬敬司氏(京都工芸繊維大学教授、昭和三十一年卒)がメンバーとして、伊藤貴康氏(三菱電機中央研究所主任研究員、昭和三十七年卒)がオブザーバとして参加され、その他理学部物理学科昭和三十七年卒の渡辺貞一氏(東芝総合研究所情報システム研究所)もオブザーバとして参加されてそれぞれ研究発表されましたが、京都大学出身者の参加の多いセミナーでした。米国側からは、カーネギーメロン大学のブレンドン教授を代表とし、大学関係十一名のメンバ

ーとジェット推進研究所六名、米
国科学財団その他からの十名のオ
ブザーバが参加しました。

セミナーはジェット推進研究所
長ピカリング博士の歓迎の辞で開
会され、五日間毎日午前九時から
午後五時まで、総計二十五件の研
究発表講演が行なわれました。こ
のときのプログラムの表紙は人体

胸部の計算機断層図で飾られた
「サイエンス・フィック・アメリ
カン」十月号の表紙のコピーでし
た。この写真は最近日本でも同誌
の翻訳雑誌である「サイエンス」
誌十二月号の表紙となつて出版さ
れましたので、ご覧になられた方
も多いかと存じます。なおこの号
にはセミナーのメンバーとして参
加したメイヨーファンディション

のジョンソン博士らによる「医療
用X線像の立体的再生」という論
文も掲載されています。昼食時以
外に午前と午後にはコーヒブレーク
のあるのは普通の国際学会の場合
と同じでしたし、ホテルでの午後
八時からのワークショップも活発
に行なわれました。

講演の内容は米国側の興味が白
血球や細胞の自動分類と人体の断
層像撮影と計算機による画像の再
構成に多少かたよつていたのに対
して、日本側は白血球、DNAな
どの顕微鏡像、網膜像、胸部X線
像、胃X線、RI像など、一応医

用画像の比較的広い分野にわたつ
たものでした。しかしそうはいう
ものの米国側の講演の中にはやけ
どの画像処理などもあつて、画像
処理の仕事の応用範囲が非常に広
くなつていゝのも面白かつ印象
深く感じたことでした。

セミナー中の二十九日の午後には
ジェット推進研究所、三十一日
の午後にはカリフォルニア大学画
像処理研究所、カリフォルニア大
学ロサンゼルス分校核医学研究
室を見学し、セミナー後の一週間
程の間にミズーリ大学コロンビア
分校(セントルイスとカンサス
ティの中間)の電気工学科と医学
部放射線科、セントルイスにある
ワシントン大学のバーンス病院と
医用計算機システム研究所、シカ
ゴのプレスバイテリアン聖ロカ病
院とイリノイ大学情報工学科、ス
タンフォード大学高エネルギー物
理学研究所、カリフォルニア大学
のローレンス・リバモア研究所と
ローレンス・バークレー研究所お
よびカリフォルニア大学バークレ
ー分校電気工学科などをかけ足で
見学して廻りました。

どの研究室でもEMIスキャナ
ーに代表される生体の断層図と計
算機による画像の再構成に力を入
れていることは確かですが、バー
ンス病院のポジトロンカメラの設
計製作や、メイヨークリニックの冠

動脈だけを抽出して三次元回転表
示する研究や心臓の断層図の再構
成などには特に興味もたれまし
た。用いられている手法は各研究
室独特のものが多く、特にその研
究室の歴史を反映しているのには
何か感銘を受けずにはいられませ
んでした。例えばジェット推進研
究所は月面写真処理の歴史的な業
績を背景にしていますし、スタン
フォード大学では線形加速器、ロ
ーレンス・バークレー研究所では
サイクロトロンを使って、それぞ
れバイ中間子や重イオンを発生さ
せて生体断層図を得ているのなど
はその好例でした。個々の研究成
果についてそれほど目を見張るこ
とがないような場合でも、研究所
全体として見ると、その研究の幅
が如何に広く、研究の深さがどん
なに深いか思い知らされるとい
う感じがしました。

また一方、今さらいうのもおか
しい位ですが、研究人口の多さと
研究のスピードの速さも実に大し
いもので、こんな大学の研究所な
どを見ている限り、社会的には非
常に色々な問題があつて悩めるア
メリカなどといわれているにもか
かわらず、アメリカ人は依然とし
て健全であり、彼らによつて構成
されているアメリカもまた健在で
あると思わざるをえませんでし
た。このような研究環境が結局は

次代のよい研究を生む温床になる
のであろうと思うと、いまわれわ
れが如何に大金を投じ、如何にバ
タバタと働いてみたところで、十
分な時間をかけてその創意を育て
るといふことに力を尽すのでなけ
れば、ますますとり残されてゆく
のではないだろうかと思つたこと
でした。まして金も投じずバタバ
タも働かずではどうにもならない
訳ですが、何はさておいてもこの
ような印象の深さをわれわれの研
究を加速するように作用させたい
ものと願つている次第です。

見学途中から別行動される方や
先に帰国される方などもあつて、
最後に一語に帰国したのは東大の
尾上教授、高木助教授と小生の僅
か三人に減つてしまつておりまし
たが、ごく短時日の間に学会と見
学が圧縮してつめこまれていたの
で、今回は非常に有意義でロスタ
イムの少ない出張であつたことを
喜んでいきます。その分だけ疲労の
蓄積はさげられませんでした。が、
ロサンゼルスからセントルイス
への途次、眼下に壮大なグランド
キャニオンの眺望をほしほしままに
することができたことと、米国を
去る前夜ゴールデンゲートブリッ
ジの北側ソサリットの辺りからサ
ンフランシスコの夜景を楽しみな
がらとつた夕食は、今回の旅行で
最も印象深い思い出となりまし
た。

京都大学工学部付属オートメー
ション研究施設長・教授)

大谷泰之先生
停年御退官

停年御退官

京都大学教授大谷泰之先生に
は、本年四月一日をもって停年退
官される。先生は、昭和十三年、
京都帝国大学工学部電気工学科を
ご卒業後、母校の講師、助教授を
経て二十九年教授に昇格、電気応
用講座をご担任になり、多年にわ
たつて電気工学の発展と人材の育
成に尽力してこられた。また学外
では、これまで電気学会副会長、
照明学会会長などを歴任され、現
在もなお電波技術審議会第三部会
長および国際照明技術委員長とし
て活躍されている。

なお、大谷泰之先生の退官事業
として本年三月二十二日(月)京
都大学電気工学科において退官
記念講義が計画されており、六月
十二日(土)午後五時より京都ホ
テルで退官記念式典が計画されて
いる。

新春囲碁放談

(昭12) 正木知己

(東京支部副支部長・趣味
の会囲碁将棋会の幹事)
(一) 洛友碁会のことども

昭和二十九年初頭、洛友会東京支部に興味の会を発足させて会員相互の親睦の度を高めようという話が出て、筆者が囲碁の世話人を引き受けることになりました。以来回を重ねること三十七回(第一表参照)三十四年から将棋も発足し何時も連合で大会を開いていきます。出席回数十回以上のベテランは次の十四名です(第二表参照)。

現在の登録者は百七十名余りで別紙の通り。但し段級位は正確ならず(第三表参照、○印は不明)。

碁会発足以来の物故者は十九名になります。佐藤穂徳氏(M44)をはじめ、長島正隆氏(T3)松本久長氏(T9)菅琴二氏(T9)大串長成氏(T12)樋口竹太郎氏(T14)浜崎諒氏(S3)白崎文雄氏(S4)等々囲碁熱心であられた諸先輩についてはなつかしい思い出が限りなくあります。が紙数の関係上とても書きつくせませんので割愛させていただきます。

会の運営については、富岡さんに何時も相談相手になつてもらい、将棋の部は専ら安達先輩にお世話願つております。加納さんには、小生沖の時代(33-43)にずっとお世話になりました。

本年度より囲碁部は宮下さんに、将棋部は正木に変更になりました。

(一)幹事よりのお願ひ
春秋二回の大手合せを行つていただきますので参加して下さい。登録された方で一回もお見えにならない方もおられますが、ぜひ御出席下さい。また、地方へ御転任になられた方には案内を差し上げていませぬが、考えてみると新幹線、飛行機の発達した時代ですから、洛友会のメンバーで碁将棋愛好の方なら全国のどなたでも御参加願いたく思います。希望の向は御一報いただければ案内状を差し上げます。つまり全国的な洛友会碁会に発展させたいものと願つております。東海地区、関西には強豪が多くおられるので支部対抗戦なども面白かろうと思います。幹事の手許には皆様の今までの戦績が一切記録されておりますから成績を知りたい方は第一報下さい。喜んで御報告いたします。

(二)囲碁漫談
小生は父兄が碁を打つていたので見よう見まねで小さい時から石は一心握りましたが、本格的なゴキチになつたのは旧制山口高校に入った時からです。ドイツ語の先生が当時(昭・六年)の田舎初段(現在の段級では五段位)、井目でどうしても勝てない。そんなバカな事があるかと力んでみたがだめで、卒業する時(昭・九年)やっと井目の壁を破ることができた

第1表 大会記録

回数	日	付	出席人数	
No	年	月	日	
1	29	2	6	9
2	29	9	26	13
3	29	11	20	18
4	30	2	13	17
5	31	6	3	14
6	31	11	23	11
7	33	1	26	11
8	34	11	29	10
9	35	11	6	9
10	36	12	3	8
11	37	11	25	7
12	38	4	7	12
13	38	9	29	14
14	38	11	10	12
15	39	5	31	9
16	39	9	20	14
17	40	9	26	12
18	41	3	27	15
19	41	10	16	11
20	42	4	10	14
21	42	10	15	11
22	43	4	7	11
23	43	10	13	9
24	44	4	6	10
25	44	10	19	13
26	45	4	5	14
27	45	11	23	15
28	46	4	18	11
29	46	10	31	14
30	47	4	23	11
31	47	10	22	12
32	48	4	29	14
33	48	10	28	12
34	49	4	28	14
35	49	10	12	22
36	50	4	27	21
37	50	10	19	14

以上

(九級)。大学三年間は専ら碁にばげんだが卒業時やつと五級(現在の段級なら初段位)。電気試験所入所口頭試験の時、「学生のくせに碁などよく打っている暇があったものだね」と神保第一部長にひやかされたのが思い出されます。試験所では入所後一躍一番強く、碁で悪名をはせました。終戦ごろから碁界も段位の資格が大巾にインフレ化してしまい、通研をやめる時(昭・33)五段をもらつたが、つまり二十一年間実力は大きく上つていない。沖電気で十年、法政大学で七年間、専ら碁を愛好しているが強さは一向進歩しない。いや、いよいよ退化する年令になった。

(S12)氏、富岡(S13)氏、何れも大いに強くなり互先で負け越し気味である。アマチュアの段位ほどあてにならない物はなく、小生に数目置く五段名人もいるが、洛友会の段級は相当きびしい部類に属するものと自負しています。碁は年令を問わず、強弱にかかわらず、一局手合せすれば一躍近親感をもてるので親睦にはもってこいと思ひます。年とつてからは碁は大変面白い趣味だと思ひます。小生色々な碁会に関連して専ら碁三昧にふけつていけるのが現状です。最近足・角のない球表面の碁盤の考察にふけています。いづれ別途報告したいものと思つています。

第2表

氏名	回数
正木知己	37回
富岡正春	36回
真崎尚忠	20回
安達遂	20回
加納寿夫	18回
国枝雄	15回
栗山勝	15回
西本清一	13回
占部五郎	12回
宮下一雄	12回
喜多村滋	11回
三浦倫義	10回
井上友一郎	10回
鴛海修三郎	10回

第3表 洛友会 東京支部 囲碁・将棋同好会名簿 50-8-30

年次	氏名	碁・将棋	年次	氏名	碁・将棋	年次	氏名	碁・将棋	
T 2	宮崎 駒吉	初段	S 15-3	山 村 竜 男	7級	S 32-4	渡 辺 寿 夫	三段	
T 4-1	中 谷 尚 忠	○	S 16 ₃ -1	山 永 安 一	○	S 33-1	福 島 邦 彦	○	
T 4-2	真 崎 尚 忠	初段	2	宮 下 一 雄	二段	S 34-1	宮 川 清 三	○	
T 9-1	小 沢 仙 吉	2級	S 16 ₁₂ -1	今 水 康 治	二段	2	森 安 正	○	
T 9-2	堀 岡 正 家	○	2	江 副 卓	○	3	信 国 弘	○	
T 12-1	池 田 経 喜	○	3	栗 山 山 田	二段 ○	S 35-1	北 村 哲 男	○	
T 12-2	福 島 秀 次	二段	4	村 吉 村 岡	二段	2	角 田 忠 夫	○	
T 13-1	高 田 中 登	○	5	天 野 寛 德	○	3	竹 田 三 護	○	
T 13-2	三 浦 倫 義	初段	S 17-1	2 鶺 飼 重 孝	○	4	森 谷 隆 男	○	
T 13-3	一 本 松 珠 璣	六段	2	3 木 村 和 一	○	5	泉 沢 美 純	1級	
T 14-1	西 原 藤 吉	七段	3	4 菊 池 武 巳	○	6	寺 沢 健 吾	○	
T 14-2	山 崎 喜 雄	○	4	5 古 川 満 智	二段	S 36-1	大 神 原 貞 夫	○	
T 14-3	脇 山 山 俊 一	○	5	6 松 橋 達 良	二段	2	喜 多 村 安 滋	四段	
T 14-4	脇 山 山 俊 一	5級	6	S 18-1	1 荒 井 清 次	3	塩 阿 部 静 朗	三段	
T 15-1	川 原 辰 誠	初段 二段	2	S 19-1	2 清 水 通 隆	5	初 鹿 野 凱 一	○	
T 15-2	山 歌 原 芳 樹	○	S 20-1	2 老 田 他 四 郎	○ ○	S 37-1	石 越 智 辰 幸	○	
T 15-3	奥 原 芳 樹	二段	2	2 鈴 木 井 常 侃	○ ○	2	越 智 藤 峻 行	○	
T 15-4	林 芳 樹	三段	3	3 福 金 下 部 悦	○ ○	3	加 荻 野 正 正	○	
S 2-1	大 島 文 平	初段	S 21-1	2 日 園 下 裕	二段	4	時 原 井 幸 男	○	
S 2-2	堀 内 多 雄	3級	2	S 22-1	1 園 野 義 德	5	平 沢 真 一 郎	○	
S 2-3	林 紀 一	○	2	S 23-1	2 河 細 田 寛 勝	○	S 38-1	本 田 忠 宏	○
S 3-1	三 浦 山 勉	○ ○	S 24-1	2 門 脇 野 喜 藏	四段 四段	S 39-1	2 三 木 将 男	○	
S 3-2	渡 波 山 幸 吉	○	2	2 佐 野 野 喜	初段	S 40-1	2 土 屋 恒 宏	○	
S 4-1	安 達 善 男	5級 二段	S 25-1	1 久 民 新 一 郎	○	2	藤 江 川 哲 秀	3級 二段	
S 4-3	東 野 善 清	三段	2	3 吉 長 谷 川 昭 三	○ ○	3	江 三 浦 橋 田 治	○	
S 4-4	久 野 善 作	○	S 26-1	2 立 川 元 啓	○ ○	4	大 園 柳 沢 利 興	○	
S 5-1	飯 田 善 五	○	2	2 門 忠 末 裕 治	○ ○	3	柳 向 井 林 勇 雄	○	
S 5-2	占 部 村 靖	二段	3	3 野 室 賀 弘 裕	○ ○	4	大 堀 雄 太 喜 郎	○	
S 5-3	中 真 壁 昌 卓	○	4	4 伊 野 東 功 三	初段	S 43-1	1 堀 田 中 喜 克	○	
S 5-4	真 立 本 憲	3級	S 28-1	5 伊 野 東 功 三	四段	S 44-1	1 堀 田 中 喜 克	○	
S 6-1	西 足 柳 文 志	○	2	2 田 中 村 康	○	S 45-1	2 高 相 賀 林 芳	○	
S 6-2	柳 文 志 朗	○	3	3 日 丸 林 元 三	○	3	小 奥 小 森 育 護	○	
S 6-3	高 原 村 博	○	4	5 丸 山 本 淳	二段	S 46-1	1 小 奥 小 森 育 護	○	
S 7-1	高 原 村 博	○	5	新 制	○	2	小 奥 小 森 育 護	○	
S 7-2	高 原 村 博	○	6	S 28-1	1 市 川 健 二	○	3	岡 野 田 護 勝	○
S 7-3	日 野 宗 雄	二段	S 29-1	2 井 上 田 健 一	○	4	福 武 村 藤 本	○	
S 7-4	吉 岡 俊 男	○	3	3 金 国 上 枝	○	S 48-1	1 福 武 村 藤 本	○	
S 8-1	久 保 久 朝	○	4	4 谷 天 野 橋 太	1級	2	2 栗 山 田 野	○	
S 8-2	浦 生 富 弥	○	S 30-1	2 天 野 橋 太	○	3	5 栗 山 田 野	○	
S 9-1	松 田 富 弥	○	3	3 荒 加 竜 治	○	S 49-1	講習所	○	
S 10-1	井 上 友 一 郎	四段	4	4 竜 治 藤 光	初段	T 6-1	井 上 市 衛	初段	
2	高 木 山 虎	○	S 31-1	1 近 伊 長 野	○	T 6-2	小 西 原 武	○	
3	西 林 吉 武	○	S 32-1	2 伊 長 野	○	S 3-1	小 西 原 武	○	
4	山 口 田 吉 武	○	3	3 伊 長 野	○	S 12-1	小 西 原 武	○	
S 12-1	1 秋 田 田 吉 武	五段	4	4 伊 長 野	○	S 15-1	小 西 原 武	○	
2	2 正 富 岡 部 野 尾	○	5	5 伊 長 野	○				
S 13-1	1 富 岡 部 野 尾	五段	6	6 伊 長 野	○				
2	2 南 平 松 生	○							
S 14-1	1 生 岩 西 相	○							
2	2 岩 西 相	○							
3	3 岩 西 相	○							
S 15-1	1 西 木 本 清 一	○							
2	2 西 木 本 清 一	○							
3	3 西 木 本 清 一	○							
4	4 西 木 本 清 一	○							
5	5 西 木 本 清 一	○							
6	6 西 木 本 清 一	○							

◎研究室紹介

電子物理学講座

この世の中で電子の関与しない物理現象は極めて少ないので、この講座の守備範囲は何処までなのか極めて漠然として居る。その証拠に電子物理又はそれに類似の教科書をみても著者によってまちまちで、結局、電子が関与しているものの現在はまだ十分に応用分野が確立していないが、将来電気・電子工学の分野で重要な地保を占めるであろう学問・技術の分野の研究と教育が守備範囲であると考

え、現在はプラズマ物理学を中心課題として、気体電子工学、アーキ物理、高温プラズマ発生技術、光源及び放射の応用など放電灯から核融合までの基礎技術に関連した研究課題に取組んでいる。従って無線通信工学講座(電気工学第二教室)電離層研究施設とはプラズマ波動現象の研究の面において、また超高温プラズマ研究施設とは核融合の研究の面において密接に関連している。

現在の研究テーマを整理すると次のようである。

1 プラズマ加熱法の研究
制御核融合を実現するためには現在最も有望視されているトコマクでさえ更に数百メガワットのエネルギーをプラズマに注入する必

要がある。このとき一%の効率悪化でもメガワットが瞬時に失なわれることになるので、エネルギーの注入効率の改善に関する基礎的研究を進めている。

2 プラズマ発生法の研究
核融合の実現には一億度のプラズマを一秒間保持しなければならぬが、そのため克服すべき技術的課題は極めて多く、とくにプラズマと炉壁との相互作用の研究は核融合炉設計上早急に着手すべきものであるが、そのためには実験に使える高温プラズマができないければならない。そこで核融合炉の観点ではなく炉壁との相互作用と計測技術の研究のための高温プラズマ発生法の開発を行なっている。当研究室で考案されたMMP S (マルチマグネトロンプラズマ

源)に更に改良を加え、イオン温度二百四十万度を定常的に得るに至った。目下これを一千万度にまで上昇させるべく努力している。

3 プラズマ波動の非線形現象
プラズマの加熱や閉じ込めにプラズマの波動はときには大いに役立つ。あるときには害を及ぼす。そこで、プラズマの波動を外部から制御することが必要になる。この目的のために、波の非線形を積極的に利用することの先駆的研究を行なってきた。現在はプラズマの加熱への有効利用の基礎研究も

終え、次の飛躍のために基礎過程の論証を実験及びコンピュータシミュレーションの両面から進めている。

4 プラズマのシミュレーション
プラズマは構成要素相互間の作用は単純であるが、極めて大規模なシステムを構成しているので、大型計算機を用いるシミュレーションには適した題材であり、また、ますます大型化するプラズマ実験の計画と装置の最適化、並びに実験の解析に必要不可欠となりつつある。限られたメモリ容量で現実のプラズマを模擬するにはそれなりの技巧が必要であり、その研究と合せてプラズマの閉じ込めと加熱のシミュレーションを行なっている。

5 プラズマ計測処理システム
プラズマ計測の精密化・多様化に対応するためばかりではなく、計算機シミュレーションの結果と実験との対応の高速化のためにもプラズマ計測処理システムの開発が必要となっている。そこでミニコンを大型計算機と実験室のマイクログコンとの中継機として使用し、計測値の処理を処理方法のレベルに応じて配分実施するシステム構成を計画し、今年度は大型計算機—ミニコン間はオンライン、ミニコン—実験室間はカセットベースによるオフラインのシステム

が完成する予定である。

6 可変色放電管
青柳・松田両先生以来の伝統を受け、光源関係では一本の放電管で電子的に発光の色を変える可変色放電管を開発した。また、この研究の途中でヒントを得て正特性放電管の開発に着手している。

講座のスタッフは板谷良平教授、百田弘助教、阿部宏尹助手、久保寛技官であるが大谷研究室の福祉修助手も一緒に仕事をしている。なお現在大学院生一名、研究生一名が在籍している。

以上の研究には多額の設備を必要としたが、研究室発足以来八年中で今日まで来られたのは洛友会会員諸兄の絶大なる御支援の御蔭であり、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

また核融合の実用化は先が永く二十一世紀と予想されるので、途中で得られた基礎的成果の実用化をすすめることも大いに必要と考え、プラズマの応用について学産協同を推進する予定である。洛友会会員諸兄の御鞭撻をお願いする次第である。

(板谷良平記)

計報

講大9年	塩沢 純	47.11.25
大正4年	安藤 昌三	50.10.28
講大11年	蛭田新一郎	50.10.29
講大8年	永嶋 勇雄	50.12.20
大正11年	岡 稔	50.12.26
昭和50年	横山 琢治	50.9.22

以上の方々のご逝去なきやうに謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

○新年御目出度うございます。本年度より新しい試みとして謹賀新年の欄を設け、有力先輩及び法人より御応募を御願ひしました。

○本号には原稿が多数集まりましたので一部次号に延ばすものが出来ました。昭和30年の金森仁志氏の南米の印象記外、御諒承下さい。

○十四日会の記事を参考にせられ後輩の方々も楽しい同窓会を計画・実施される様希望します。○正木知己氏の囲碁放談面白く拝見しました。

他支部にも有力なメンバーが居られるので親睦囲碁会を計画・実施したいものです。

(幹事山本記)

